

第一礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師
プレイズリード：郭永東牧師

前奏	540	会衆
主の祈り		会衆
プレイズ	「あなたは」 「永遠にあなたと」	会衆
聖書朗読	使徒言行録 23:11 (新約聖書 p260)	司会
祈禱	444 「世の初め」	司会
賛美	「勇気を出せ」	会衆
メッセージ	新生 379	司会
祈禱	「行きて告げよ」	司会
賛美	新生 672b	司会
献金祈禱		司会
報告		司会
頌栄		司会
祝禱		司会



第二礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師

聖書：サムエル記上 16:1-13
(旧約聖書 p453)
メッセージ：「油注がれるダビデ」
プレイズ：「世の初め」「主の栄光宮に」
賛美：新生 586 新生 363



ファミリー礼拝

メッセージ：渡真利千佳子姉

聖書：マタイによる福音書 11:2-19
メッセージ：「問いつつ、問われつつ」

<巻頭言>

「さくらと十字架」

牧師 渡真利彦文

教会の裏手、川の土手に桜が咲いていました。すっかり葉桜になりましたが、ご覧になりましたか。

日本本土の桜の開花は北上しますが、沖縄の桜は北から南下します。北を上と考えると、本土の桜は下から上へ向かう方向性をもつこととなります。他方、沖縄の桜は上から下への方向性となります。聖書の中で考えると、キリスト教は上から下への方向性を持つとってよいのです。人間が神を求めるよりも、神ご自身が人間を求めてやまない姿が描かれています。

特にそのことはイエス・キリストの生涯に見ることができます。イエス・キリストは父なる神の許からこの人間の世界に遣わされました。救いの働きを実現するために神の国を宣べ伝え、そして十字架の死による贖いの業を成し遂げられたのです。三日目に復活することにより永遠の命を約束し、神のもとに帰られたのでした。さらにイエス・キリストは父なる神の御座に座し、今も私たちのために執り成し祈られているのです。父なる神の宣教の情熱は、ご自身の創造の御業とひとり子を十字架で失った悲しみが原点と考えられます。御国では主イエス・キリストと私たちの信仰の先輩、数えきれない群れが待っているのです。

さくらは日本のシンボルであり、十字架はキリスト教のシンボルですが、沖縄においては「さくらと十字架」がシンボルとなる日を夢見たいと願っています。